

【今週の注目疾患】

《後天性免疫不全症候群》

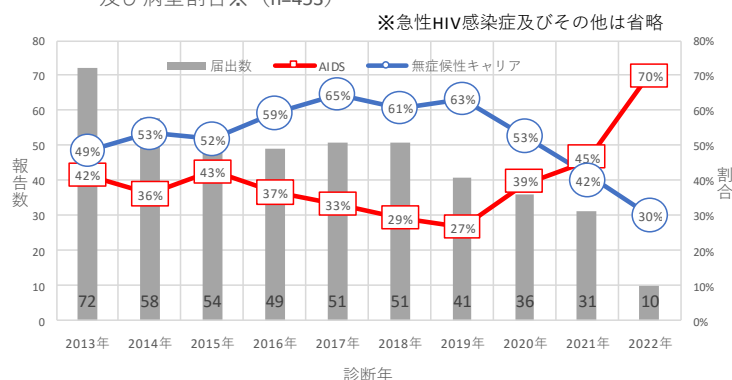
厚生労働省は、2006年以降、毎年6月1日から6月7日までを「HIV検査普及週間」と定めている¹⁾。当県においても、6月5日（日）に浦安市民プラザ Wave101（浦安市）において無料・匿名の休日街頭 HIV 検査を実施予定であり、受検を希望される方は積極的に活用されたい²⁾。また、ちば県民保健予防財団への委託による検査も毎月実施しているため、併せて検討いただきたい³⁾。（なお、変更となる場合があるため、最新の検査実施状況については、県ホームページ等でご確認ください）

2022年第20週までの後天性免疫不全症候群累計報告数は10例であった。全て男性であり、年代別では、20代と40代が3例（30%）と最も多く、30代が2例（20%）と続いた。10例のうち、AIDS患者が7例（70%）、無症候性キャリアが3例（30%）であった。

2013年から2022年第20週までに報告された後天性免疫不全症候群は453例であり、男性が407例（90%）、女性が46例（10%）であり、9割を男性が占めていた。年代別では、男性では40代112例（28%）と最も多く、次いで30代104例（26%）であった。女性についても、40代が16例（35%）と最も多く、次いで30代が10例（22%）であった。病型別では男性では無症候性キャリアが228例（56%）で、AIDSは147例（36%）であった。一方、女性はAIDSが23例（50%）と最も多く、次いで無症候性キャリアが20例（43%）であった。

累計報告数は、近年減少傾向がみられている。一方、後天性免疫不全症候群の報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、2015年から2019年までは減少傾向にあり、2019年は27%であったが、2020年は39%と増加した。2021年はAIDS患者と無症候性キャリアの割合が逆転し、その傾向が2022年も継続している（図）。

図：2013年から2022年第20週までの県内後天性免疫不全症候群報告数及び病型割合※（n=453）



報告に記載のあった推定される感染原因※は、男性では同性間の性的接触が235例（58%）と最も多かった。次に異性間の性的接触が102例（25%）であり、不明が79例（19%）であった。また、少数ではあったが、静注薬物や刺青などが原因として推定されるケースもあった。一方、女性では、異性間の性的接触が21例（46%）と最も多く見られ、20例（43%）が不明であった。（※複数の推定感染原因が記載されている場合には、重複して計上している）

HIV の主な感染経路は、①性的接触、②母子感染（経胎盤、経産道、経母乳感染）、③血液によるもの（輸血、麻薬・薬物の静脈注射など）がある。血液や体液を介する接触がない限り、日常生活では HIV に感染する可能性は低い⁴⁾。性行為による感染は最も多く、HIV は感染者の血液・精液・陰分泌液から、性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通して感染する。感染を予防するワクチンはなく、性行為におけるコンドームの正しい使用や血液が付着する可能性のある器具を共有しないことなどが重要となる⁵⁾。

HIV 感染の自然経過は感染初期、無症候期、AIDS 発症期の3期に分けられる。HIV 感染成立後の2~3週間後に HIV 血症はピークに達する。この時期には発熱、咽頭痛、頭痛などの症状が出現する（感染初期）。この時期に診断ができるとその後の治療や経過に圧倒的に有利になることから、アクティブな性行為感染症（梅毒、淋病など）とこれらの急性感染症状が同時にある時には、HIV 感染を疑うことが重要である。無症候期を経て、数年~10年後、HIV 感染が進行すると通常の免疫状態ではほぼ起こらない日和見感染症や悪性腫瘍を発症する（AIDS 発症期）。治療には早期診断、早期治療開始が最も重要である⁴⁾。

早期診断に重要な役割を果たすのが保健所等における HIV 検査であるが、2020年からの新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、やむを得ず業務縮小や中止を迫られている地域や検査機関もある。近年 AIDS 患者の発生割合の増加傾向がみられており、検査機会の減少等の影響で、無症状感染者が診断に結びついていない可能性に十分留意する必要がある。2020年からの HIV 検査機会減少は現時点での未診断者の増加のみならず、今後新たに感染する人の増加、数年後の新規報告数の増加などに繋がる懸念される⁶⁾。

■参考

1) 厚生労働省：HIV検査普及週間に向けたイベントを実施します

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000206538_00014.html

2) 千葉県：休日街頭 HIV 検査について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kansenshou/kyuujitu.html>

3) 千葉県：エイズ・性感染症関連情報

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/index.html>

4) 国立感染症研究所：AIDS（後天性免疫不全症候群）とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>

5) 公益財団法人エイズ予防財団：エイズ予防情報ネット（エイズ Q&A）

<https://api-net.jfap.or.jp/knowledge/index.html>

6) 国立感染症研究所：IASR Vol. 42, No.10 (No. 500) October 2021

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-vol42/10728-idx500.html>